



おおぞら

第205号

2021年11月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

「私の大切にしている言葉」

おおぞら3号館課長 漆戸直子

皆さま、はじめまして!!

2021年3月に聖隷三方原病院F5病棟から聖隷おおぞら療育センター3号館に異動して参りました、看護師の漆戸直子と申します。聖隷高校・短期大学出身の生粋の聖隷育ちです。

今まで病院勤務の経験しかない私ですが、これも何かのご縁だと思えますので皆さま末永く宜しくお願ひ申し上げます。

今回は「私の大切にしている言葉」についてお話しさせていただきます。それは『仕事が楽しいなら人生は楽園だが、仕事が義務なら人生は地獄である』です。この言葉は、私が小学1年生の時の担任の先生が別の小学校に異動される時(記憶では私が小学4年生頃)に、夏休みに電話をいただき色紙に毛筆で書かれ、教室で手渡されたものです。何故、その色紙を先生が私にくださったのかは覚えていません。しかし、素直だった私は、その色紙を大切に

額縁に入れて部屋に飾って

いました。そして、年齢を重ねるうちに、その言葉の仕事の部分を学校や部活に置き換えて、気持ちを奮い立たせて頑張ってきました。就職してからは、その言葉通り仕事を楽しくをモットーに今まで突き進ん

できました。勿論、仕事は楽しいことばかりではないことも経験上理解しています。しかし、如何に仕事を楽しくできるかは自分自身の気持ちの持ち様である、楽しく変えられると私は思っています。

私には保育園に通う娘がいます。娘に、「保育園楽しかった?」と聞くと「楽しかった!!○○ちゃんと積み木して遊んだ」等と満面の笑みで返事をしてくれました。ある日、娘に「お仕事楽しかった?」と聞かれた私は、「.:.:すぐに楽しかったと返事できませんでした。正直、異動して数ヶ月、まだまだ楽しいと思えるまでおおぞらのこと、利用者

さんのことを理解できていません。そのため、娘にしっかりと「楽しかったよ」と返事できなかったのだと思っています。

異動してきてすごく感心したことがあります。それは、看護師や生活支援員が、一人一人の利用者さんのことを深く理解し、どうしたら安全・安楽に生活できるのかを考え日々ケアをしていることです。勿論、それは当たり前と思われるかも知れません。しかし、当然

すべきことを実際に実践できている現場は本当にすごいと感じました。病院でも1人1人の患者さんに看護計画を立案し看護過程を展開してききましたが、おおぞらでは病院とは違った生活の細部を、1つ1つ考え進めて話し合っていく力が現場であり、それを現場のスタッフは実践しています。私自身とても刺激を受けました。



3号館スタッフと



まだまだ未熟者ですが、皆さまにご指導いただき、おおぞら職員の一人となれるように頑張りたいと思います。そして、いつの日か娘に胸を張って仕事の楽しさを伝えていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

あすかの 日常活動

吉國 香苗

Aさんは、職員の優しい声をかけや物音よりも、急に飛び込んでくるような物音や人の声や笑い声の方が気づきやすく、ぱっと表情が明るくなって笑うことがあります。

日常活動では、しらないおとこ、を語りかけました。「しらないまちのしらないおとこ どこかのまちのしらないおとこ…」と語り始めると目を少し大きくして聞いています。「でんわがなくても しーらないうー」と言うとき片方の口角が上ががり、表情を緩めて聞いていました。それまでのなだらかな語りかけから「しーらない！」と言葉が伸びてリズムが変わるところが面白いようでした。また、「どしめぐり」という語りかけは、「たうえ えひがさ さくらがい いなか かなかな なつやすみ」と語りかけていくと、だんだんと目に力がこもり、最後までとても真剣な

表情で聞いていました。七五調で繰り返される、言葉のリズムを感じているようでした。同じ言葉のリズムが繰り返されることでより集中して聞いているようでした。

グロッケンで「ド ミソ ド」と段々と音階が上がるように鳴らします。グロッケンの音が鳴ると目線が一点に止まって集中して音を聞いています。最後の高い「ド」と鳴らした時に目を見開いて、ハッとするような表情をしています。最初の低い「ド」から高い「ド」になった音階の変化を感じたようで、高い「ド」の高音の響きにAさんの気持ちが動いたように



感じました。また、キーボードで「ドレミ ドレミ ドレミ ドレミ」を弾くと、「ドレミ ドレミ」と音がしたときにぐっと目が大きくなって、真剣な表情で聞いていました。「ドレミドレミ」の繰り返しのリズムを集中して聞いていたようでした。

普段はなかなかみることができないようなAさんの表出も、日常活動の中ではみられます。集中した表情や真剣なまなざし、言葉のリズムを面白いと感じて緩んだ表情など、Aさんの生き生きとした表情を日常活動の中で見られることをとても嬉しく思います。

活動道具の紹介

『マジックスパイラルキューブ』

ひねりながら引く張ると四角い箱が出てくるように見える、活動道具です。コントラストもはっきりしていてパツと出てくるように見えるため、面白いようです。また、段々伸びていく変化や縮んでいく変化がよ

く感じられ、じつとよく見えています。杭が打たれている土台の



上部から、ボールが落ちていく動きが感じられる活動です。そのまま落とすと動きが速いため、裏から磁石で操作をしています。上か

ら下までの動きの中で不規則に動く面白さがあり、よく見えています。



絵本

『はつきよい畑場所』

講談社 ががくいひろし

大相撲畑場所の千秋楽。たまねにしきや、なすびさと、「だいこあらし」などの野菜の力土が大相撲の取り組みをする絵本です。「まったなし はつきよいい のこった のこった」などの行司の掛け声や、「なんと ここぞ だいこあらし きりかえした」などの実況アナウンスから、白熱した取り組みや勢いが感じられ、集中して聴いています。また、語尾の伸ばす音や抑揚の変化の面白さ、力を入れた野菜の表情などの面白さがあり、多くの利用者を楽しませてくれます。



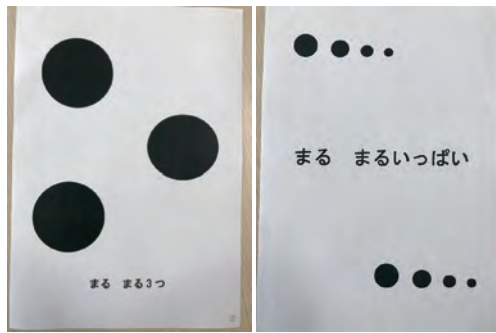
絵本

『まる まるいっばい』

職員が制作した絵本の紹介をします。ページをめくると黒いまるが大きくなったり増えたりし、次ページへの期待が高まる視覚的変

化が感じられる絵本です。「まる まるふたつ」、「まるまるまるまる まるいっばい」などの繰り返し音や、声の強弱、伸ばす音などもあり、語りの面白さもあります。今後は、色が変わる、形が変わるなど感じられる絵本も制作し、シリーズ化していきたいと思っています。

★ ★ ★ ★ ★
おおぞら時の人
 ★ ★ ★ ★ ★



おおぞらでは、現場職員以外にも多くの方が様々な形で利用者の生活を支えています。今回紹介するのは、外来受付の藤森美喜さんと井口久美子さんです。藤森さんは21年、井口さんは11

年おおぞらで働いています。午前中は藤森さん、午後は井口さんが主に受付を担当しています。どのような方がどのような仕事をされているかをインタビューしました。

Q. 受付で気をつけていることや大切にしていることを教えてください。

来られた方に安心感を与えられるよう、利用者やご家族に寄り添った対応をするようにしています。初回利用時は誰もが緊張されています。受付の声のかけ方ひとつで話しやすさが違ってしまいますので、事務的にならず、丁寧に話しかけるように心がけています。また、困ったときにはご本人



受診の皆さまにトリアージシートの記入をお願いしています



やご家族の方から話しかけてきやすいような雰囲気をつくれるよう、日々のコミュニケーションを大切にしています。それから、待ち時間ができるだけ少なくなるように心がけています。

Q. 受付をしていて嬉しかったことを教えてください。

施設の性質上、利用者やそのご家族とのつきあいが長くなります。はじめは小さかった子が、ひかりの子に通園するようになった、小学校にあがった、高校生になった...などその子の成長を感じられたり見届けられたりするのが嬉しいです。子どもの成長だけでなく、ご家族が葛藤を乗り

越え強くなっていくのも日々感じています。また、ご家族から気にかけてくださるのも嬉しく思っています。利用者やご家族からのお声かけに励まされ、教えられることも多いです。リハビリでは、おおぞらを卒業されて次のステップへ進まれる方もいらっしゃいます。卒業して会えなくなるのは少しさみしいですが、嬉しいことでもあるので笑顔で送り出すようにしています。

Q. どのようなことをして気分転換をしているか教えてください。

何かを制作するのが好きで、時々2人でワークショップに参加しています。最近では、トルコラン



左：井口、右：藤森です

作りをしました。3時間ほど、黙々とランプシェードに細かなガラスの破片を貼り付けて作りました。

藤森さん・緊急事態宣言発令前までは、習字を8年、ピラテスを10年、パーソナルトレーニングをして気分転換をしていました。習い事は、子育ても一段落して自分の時間を大切にしたいと思い、始めました。コツコツと続けて、だいぶ体が動くようになりました。現在は緊急事態宣言発令中でお休みしているので、体がなまっているような気がします。他にも、お菓子作りが好きでケーキやクッキーなどを作っているそうので、美味しいと評判です。

井口さん・孫と遊んだり犬の面倒をみたりしています。他にも編み物を3年ほど続けています。編み物教室の先生に作りたい物はあるが作れそうかと相談すると、「大丈夫、大丈夫」と声をかけてくださるので、その声に励まされ帽子、バッグ、ショール、セーターなどを作りました。バッグやショールは通勤時にも使用していたそうで、上手だと評判でした。

リレーエッセイ

今号より「リレーエッセイ」の掲載を始めます。

職員が生活のなかで感じたリレー方式でお伝えしていきます。

第1回目は通所あさひの藤田さんです。

リコーダーって

いいなー!

あさひ 藤田 一仁

私がリコーダーを始めたのは、今から10年ほど前のことでした。老人施設で相談員をしていた時に、同じ施設で勤務していた同僚に「うちのサークルで、一緒にリコーダーを吹きませんか?」と誘われたのがきっかけです。リコーダーに触るのは、小学校の授業で吹いた以来のことなので、始めは1曲も吹けませんでしたが。教本を見たり、公民館での月2回のサークルに参加したり、仲間に教えてもらって少しずつ簡単な曲が吹けるようになりました。今では、ソプラノとアルトの2種類を吹けるようになり、新しくテナーリコーダーの練習を始めています。



す。練習会場の公民館では、毎年地域の敬老会や公民館フェスタに参加し、失敗しながらも大勢の方に演奏を聞いてもらい、充実した時間を過ごしています。

あさひのAグループでは朝の会が行われます。毎月曲を決め、演奏に合わせて他の職員が歌い、利用者がそれを聞いて1日が始まります。毎日が楽しみです。

リコーダーは、小学校で経験する楽器で簡単に取組めます。プラスチックのリコーダーでも十分美しい音が出ます。リコーダーは生涯通して楽しむ趣味にうってつけです。これから的人生、リコーダーを趣味にしてみませんか? 次回はあおばの村上さんを予定しています。

異動職員紹介

1号館 神谷美智英

聖隷三方原病院透析室より異動になりました神谷です。毎日が学ぶ事、学び直す事ばかりですが、ひとつひとつ理解しながら大事に獲得していきたいと考えています。ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、よろしくお願い致します。

通所あさひ 緊急搬送訓練を行いました

あさひでは年2回緊急搬送訓練を実施しています。

BLSのスキルチェック、ストレッチャーへの移動、リフト車輛の操作など、一つ一つ確認しながら行っています。



苦情解決委員会

2021年4月~6月

公表する苦情はありませんでした。

	7月	8月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	54人 (289日)	20人 (61日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	26人 (116日)	18人 (35日)
実習者数 (グループ数)	1人 (1グループ)	4人 (2グループ)